

## ◎実態が浮き彫りになったからこそ早急な支援策の策定を

お蔭様で3期目の県政の場に送り出して頂きました。厳しかった選挙結果を含め県政浮揚、特に長崎市の活性化に向けて全力で取り組む決意です。これまで以上のご支援、ご助言をお願い申し上げます。通信を再開させていただきます。※選挙のお礼文は禁止されていますのでご了承くださいませ。

これまで親の経済的格差が子供に影響を及ぼす、いわゆる「子どもの貧困」問題については社会問題化するなか、各自治体においては「問題意識は持ちつつも実態把握できず十分な支援ができていない」現況がありました。そこで前任期の昨年3月議会で「本県の実態調査をすべき」と質疑を行い、これまで国の指針待ちとの答弁に終始していた県当局から、独自の調査を行うという答弁を知事より引き出しました。

そのうえで昨秋から県下の小5、中2の児童とその保護者を対象にアンケート調査が行われました。その結果が先月26日に公表されましたが、新聞報道にある通り子どもの貧困率は11.2%で、以下にある通りやはり親の影響を子どもが受けていることが窺われます。

表でみると現在不利益を被っていることは問題ですが、貧困状態にある子どもがそうでない子どもに比べ自己肯定感が低い傾向にあることがわかり、不利益の解消は有効的な支援策を展開することで対応できるとしても、自己肯定感(表⑤⑥)を高めるにはどのような方策があるのかについては、個人的にはそちらが問題が根深く、様々な切り口での考察が必要であると思います。子どもが日々成長することを踏まえた時に、喫緊の重点課題という認識を持ち取り組んでいきます。

### 子どもの生活実態調査結果の主な内容

	貧困線以上の 収入世帯	貧困線未満の 収入世帯	ひとり親 世帯	両親がいる 世帯
①医療機関を受診させられなかった経験がある (小5)	2.1	7.4	4.6	2.3
②習い事に通わせられなかった経験がある (中2)	9.2	24.3	15.3	9.3
③子どもだけで夜間に留守番をさせることがある (小5)	10.0	13.1	15.6	9.1
④勉強がわかる (中2)	77.9	66.2	69.5	77.8
⑤勉強やスポーツなどをがんばりたい (小5)	91.6	85.2	87.7	91.4
⑥自分には良いところがある (小5)	72.8	65.4	67.5	72.8

単位は%。①～③は保護者への質問、④～⑥は児童生徒への質問

2019.4.2

長崎新聞

アンケート結果から所得階層(貧困線 97.2万下回る世帯は11.2%)や家族形態(ひとり親15.8%)で、

- 経済状況 「子どもが希望したのにできなかった経験」
- 生活環境 「規則的な生活習慣」「子どもの健康や学力」
- 教育環境 「子どもが希望する学校段階(学歴)」「子どもの学習機会や理解度」
- 社会環境 「必要とする経済的支援等の割合」「社会的孤立(社会関係の希薄化)」
- 心身への影響 「保護者の気持ちの不安定さや体調」  
「子どもの向上心やチャレンジ精神、自己肯定感」

に差があることが明らかとなりました。